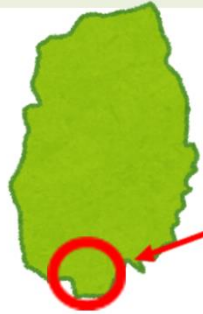


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例 (28~30年度: 計画作成主体: 一関地方農業再生協議会) (岩手県)

取組の概要

- 対象品目 : 水稻 (産地面積: 283.3ha)
 主な取組主体 : いわて平泉農業協同組合
 成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減
 基準 (H27年度) 27,481円/t
 目標 (R2年度) 12,878円/t
 導入施設等 : 整備事業 (集出荷貯蔵施設)



岩手県一関市花泉町夏川地区

産地体制

- ・岩手県
- ・一関市

一関地方農業再生協議会

- ①計画の策定・管理
- ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

- ・協議会と取組主体との情報共有 (取組状況等)
- ・行政機関 (県、市) 及び農協等によるサポート体制

取組主体

- ①取組計画の作成
- ②取組実施 等

地域における独自の取組

<主な取組>

- ・ライスセンターの再編によるコストの削減
- ・フレコン、バラ出荷による流通コストの削減

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

当地区のライスセンターは老朽化により修繕費等の経費がかさんでいることから、運営の見直しが必要な状況にあった。一方、米を中心とした大規模経営体が農地の集積を進めており、米価安定化のためライスセンターを再編することにより集出荷コストの低減を図り、実需者ニーズに対応した質の高いロットの提供を通じて所得額の増加を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①集出荷貯蔵施設 (カントリーエレベーター) の整備支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①ライスセンターの再編によるコスト削減効果
- ②ロットの均質化、フレコン・バラ出荷による有利販売

【事業実施による間接効果】

- ①カントリーエレベーター利用料金値下げによる利用者の経費節減

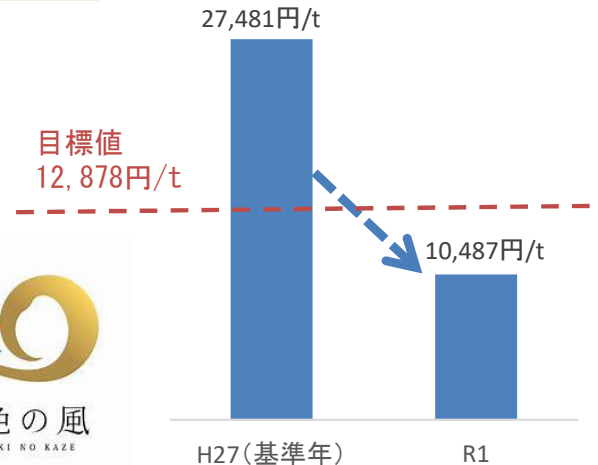
**集出荷コストが
62%減少
(達成率116%)**



産地で栽培している岩手県オリジナル水稻品種「金色の風」



金色の風
KONJIKI NO KAZE



実績値 (集出荷コスト)